



令和2年1月

群馬県立
太田工業高等学校
同窓会
0276(45)4742

同窓会事務局

同窓会報三十六号
発行によせて



同窓会会長 大関 貞夫 (1E)

同窓会会員の皆様方へ、母校卒業後はご健勝にて職場や地域等に於いて活躍されている事とご推察をいたします。母校の歴史の経過は早いもので一期生が卒業してから年齢的には古希を超えた年代になってまいりました。特に最近では時間の経過が非常に早く感じられる年代になってまいりました。それだけ歳を重ね加齢になった証拠だと自分なりに自問自答し納得をしております。

私事ですが卒業後ある企業に六十四歳迄勤務しその後四年間雇用延長で六十四歳にて退職を致しました。これも健康のお陰と感じております。人生一〇〇年時代と言われておりますが数字的な部分だけでは人生が楽しく過ぎていていけないような気がいたします。

退職後は趣味や農作業等に精を出し家族も増えたことですので残りの人生を楽しんで過ごしたいなど日々考えております。

処で母校の簡単な報告ですが、ご案内の様に工業祭が昨年度より毎年

開催されることに決定されました。同窓会も事務局のお骨折りの陰でブースを設けます。過去の思い出深いアルバムや会報・甲子園出場の資料等々を展示いたしております。又美術部OBが恩師と共に(絆)というサークルを結成し同窓会ブースに十数点素晴らしい絵画を展示して頂きます。これは見る価値が有ります、なお本部の役員の方が関わっております。八木節愛好会・チンドン愛好会が工業祭に花を添えて下さいます。家族連れの方や子供さん達が非常に喜びますので工業祭には是非足を運んでくださる様お願いいたします。と同時に在校生の素晴らしい技術や特技を見学してください。時代の経過を感じますので。

チーム太工



校長 三芝 功一

太田工業高校同窓会会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平

素より本校教育活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

私は、平成二十九年四月に桐生南高校から着任しました三芝功一と申します。この太田工業高校には、平成二年四月から平成十五年三月までの十三年間、保健体育教師として勤めてまいりました。機械科・電気科の担任や陸上競技部の顧問として楽しく過ごさせてもらい、異動時の生徒との別れが辛かったことを覚えております。あれから十四年経って太工に戻って来ることができ、大変嬉しく光栄に思っております。

さて、本校は昭和三十六年の創立以来、地域の信頼とご支援を得て確かな存立の基盤を築き発展し、今年で創立五十九年目を迎えます。一万三千人を超える卒業生は、多種多様な分野で大活躍され後輩の励みになっています。

現在、機械科、電子機械科、電気科情報技術科の四科五クラス(機械科二クラス、他は一クラス)を設置し、ものづくりに関する知識・技術・技能の習得をとおして工業のスペシャリストとして活躍できる生徒の育成を図っております。さらに、電気工士や危険物取扱者などの国家資格や各種技能検定の取得にも積極的に挑戦し、多くの生徒が合格しています。

卒業後の進路は約六十%の生徒が就職希望で、現場の即戦力として期待されています。幸いなことに東毛地区は関東の中でも有数な工業地帯のため、求人数(本年度：一千八百余名)、就職希望者内定率(百%)ともに、県下の高校の中でもトップクラスを誇っています。大学や専門学校へは約四十%の生徒が進学して

います。これも、諸先輩方が各方面で太工卒業生としてのプライドを持って活躍されているからこそその恩恵であり、ありがたいことで感謝いたします。

近年の部活動の活躍ですが、バドミントン、陸上競技、柔道、山岳(クライミング)、相撲、体操、長刀、ボクシングなどの運動部だけでなく、美術、アイデアロボット研究、自動車研究等の文化部においても関東大会・全国大会出場の実績を上げています。他にサッカー、野球、バレーボールなども熱心に取り組み、部活動をおして心身を鍛え協調性やコミュニケーション能力、忍耐力といった資質・能力を高めることにより、社会で必要とされる豊かな人間性も育んでいます。また、ものづくりの各種大会やコンクール等においても関東大会・全国大会へ駒を進め活躍しています。

昨年からは生徒の要望に応え、三年に一度の「工業祭」を毎年実施することになりました。今年の三年生は三回目を迎えます。行事の充実を図ることで、一人ひとりの生徒に、自分の良さや可能性を認識させ、他者を尊重し協働しながら社会変化に対応できる力を身につけさせるためです。むすびに、生徒が楽しく生きいきと学びながら主体的に活動できるように積極的に支援し、生徒の夢の実現を目指して全教職員で取り組んでいます。これまで先輩方が築いてこられた歴史と伝統に敬意と感謝の念を抱き、更に今後とも社会に一層信頼される学校づくり、変化する時代を逞しく生き抜く人材の育成に努めて参りますので、引き続きご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

校歌と同窓会と絆



教頭 瀧川 豊宏

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

本校に赴任して三年目となりました。赴任して本校の中で日頃より「いいな」と思っていることの一つに校歌があります。学校生活の中で「校歌」を歌う機会が数多くあります。校歌を歌えば在校生のみならず、同窓会の皆様とも太工の絆が見えてくるような気がいたします。特に、スポーツと校歌は関連が強く、校歌を通して愛校心がより高まり、一体となった応援ができると思います。校歌を歌う場面で私自身がいま思っているのは高校野球です。本校も甲子園出場校で、それは昭和五十八年夏のことでした。県大会決勝戦では渡辺投手を擁する前橋工業高校を破り、見事甲子園初出場を果たしました。甲子園での対戦相手は、当時やまびこ打線で有名な水野投手を擁する徳島県代表の池田高校

でした。当時、私と選手達との年齢が近いことや、生まれも育ちも太田市の私にとつて地元の太工が出演することもあり、試合当日はテレビの前で食い入るように観戦しました。結果は残念ながら一対八で負けましたが、池田高校は前年の夏、その年の春に優勝しており、そんな強豪高校と互角に戦い、その姿に多くの勇氣と元気をもらった記憶があります。その時は甲子園で校歌は聴けなかったのですが、今後「いつか甲子園で校歌を」を目標にそれを果たす日が来ますことを私自身祈念しておりますし、在校生、同窓会の皆様一同応援していることと思います。

本校での校歌の思い出として、二つあります。一つは、二〇一八平昌オリンピックの坂爪亮介選手活躍の話です。坂爪選手は皆様のご存じのとおり本校電子機械科の卒業生です。平成二十年三月卒（四十四期）スケートのシヨート・トラックに出場し太田市のパブリックビューイングで大関会長を始め同窓会の方々と共に観戦して応援いたしました。結果も男子個人一〇〇〇m五位、五〇〇m八位、五〇〇mリレー七位と入賞し、会場も大いに盛り上がりました。その後、同窓会を中心とした働きかけで本校に報告会という形で坂爪選手が凱旋してくれました。坂爪選手の日常生活の話やオリンピックの話、練習に対する

日々の姿勢等をお話され、本校生徒も大変聞き入っておりました。そして坂爪選手へのお礼と今後の活躍を祈念して、最後に全員で坂爪選手と共に校歌を歌いました。

もう一つは、今年度の一学期の音楽教室での話です。ピアノ奏者の小原孝先生を招き行われました。その中で小原先生のリクエストで全校の生徒全員で校歌を歌う場面がありました。日頃から式典や音楽の授業等で歌う機会がありますが、このような整ったホールで全員で歌うのは初めてで、このときは歌声も大きく最高のものでありました。まさに「太工ブランド」の精神が表れ、全校生徒が学校に対して愛着と誇りを持って校歌に表れていると感じました。歌い終わった後、生徒も笑顔で、それぞれが本校の一員としての一体感が感じられた出来事でした。小原先生から「こんなにしっかりと自信を持って堂々と歌ってくれる学校は少ない」とお褒めの言葉もいただきました。

今後、そんな校歌と本校の名前が東毛のみならず全県下、全国に名前が広まり、生徒の活躍が見られるように職員一同努力してまいります。同窓会の大関会長を始め会員の皆様にもこれまでと同様にご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

平昌オリンピックの経験談とご報告



坂爪 亮介 (44D)

二〇〇八年に太田工業高等学校を卒業し、その十年後に私は二度目のオリンピックに挑戦させていただきました。結果は三種目入賞の一〇〇〇m五位、五〇〇m八位、五〇〇mリレー七位でした。

二回出場して感じたことはオリンピックというのには世界的なお祭りだということです。選手村ではいろんなところでパフォーマンスが開催されています。知らない外国選手と自国のピンバッジを交換して国際交流することもオリンピックでは恒例です。すぐ目の前までプーチン大統領が視察に来ていたり、有名選手とも写真を撮ったりしました。学んだことの一つにオリンピックを感じたり楽しんだりする中でオリンピックという舞





台はとても特別な場所であり、普段と同じようにやるということがとても難しいということです。まわりに惑わされることなく自分のやるべきことに集中するというシンプルなことが最も大事なように感じました。競技が終わればお互いが今までの努力を称え合い、国境を超えて言葉が通じなくても外国の選手と心を通じることができたときは、スポーツの偉大さや素晴らしさを身に染みて感じました。

このような経験ができたことは私にとって人生の財産であり、多くの方に感謝しなければいけないと感じています。そして、次の世代にも託していかなければいけないという使命感も感じています。今はそのような思いもあり、トヨタ自動車でコーチをしています。日本オリンピック委員会（JOC）の「人間力の向上なくして、競技力の向上なし」という言葉があるように、私も

成長しなければ選手を育成できません。コーチ、選手両方が成長し、二〇二二年ではメダルを獲得できるように精進致します。

三度の太工生活



金井 正行 (35E)

この度、太田工業高校へ赴任して参りました、太工OB 平成十年年度電気科卒業の金井正行と申します。本校で学生として学んだ後、大学（学士【工学】）、大学院（修士【工学】）、民間企業を経て、教員となりました。教員としては、八年前に情報技術科に勤務を一年間して以来の二度目の赴任です。本年は本当の古巣、電気科で教諭として教鞭を執ることに成り、まさに「OB母校へ帰る」を実感しております。校舎の外観は再会する度に、少し老けたなあと感じます。鏡に映る自身の老いに重ねて、ぱっと見は同じなんだけども、よく見てみると所々痛んでいたり、具合が悪かったり。それだけ校舎も私も互いに年を重ねたのだと思います。本校に赴任したからには、教員であり後輩である生徒たちと、共に励み、高めあい、生徒たちにとって

未来を決める三年間を実りあるものにさせたいのです。私は、そのサポートをOBとして、教員として取り組む次第ですので、ご理解ご協力のほど関係者の皆様、同窓会OBの皆様よろしくお願いいたします。

さて、近況報告といたしましては、教員になって以来、太田工業高校のほか前工、桐工、高工、館商工など高校を行動してきました。その途中で、放送大学の学生として学位を取得しました【学士（教養）】。やはり、太田工業高校で身につけた、学ぶ姿勢というものが活かされていると感じます。お世辞にも中学生時代は勉強をしていたといえない学生でしたので。放送大学は、通信制大学なので学友はあれど、学舎はテレビやパソコンの画面の向こうです。その学びは孤独なもので、自分が頑張るしかないです。すっかり覚える能力が若いときより低下していたのですが、昔取った杵柄でなんとか優秀な成績で第二の大学を卒業することが出来ました。工業ではない科目は意外と刺激的でおもしろいです。この大学生活で、特別支援学校教育免許の必要な科目取得や、司書教諭講習の修了などをすることが出来ました。これから年を重ねても、何かしら学びたいと私は今思っています。その他家庭事ではありますが、三年前に結婚をしたことで、より仕事に邁進できていると思っています。最近では妻の勧めで始めた御朱印をいただく、「御朱印巡り」を始めま

した。神社、仏閣を帳面二冊もって、活動を余暇に行っております。「如何によく働くか」「如何によく人生を楽しむか」であると最近はお考えようになりました。

まとめに、人生のすべての転機は太田工業高校にあつたのではないかと私は思います。自身が転機と感じたこの高校時代を、後輩たる生徒たちに良い転機にしてもらいたいと、切に願います。

母校に帰るまで



小野里 太志 (41J)

今年度より同窓会本部役員となりました、小野里太志と申します。太田工業高校を平成十六年度に卒業し、現在母校で教員をしています。私は中学時代、学校の勉強があまり好きではなく、学校に通うことが体が苦手な生徒でした。そんな私がなぜ教員になることになったのか。そのきっかけは、ここ太田工業高校にあります。勉強は苦手でしたが、小さい頃から工作をしたり、コンピュータをさわったりすることが好きでした。もともと高校進学もする気

があまりなかった私ですが、工業高校に進学すれば授業でそういうことを教われると知り、太田工業への進学を決めました。

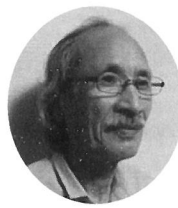
そんな期待感を持って高校に進学すると、中学時代と違って授業や学校生活に面白さを感じ始めました。好きなことが学べる専門科目の授業や実習では好奇心を掻き立てられ、教室での生活は同じ志を持った仲間たちと笑って過ごす、充実した高校生活を過ごしました。

卒業を前にして、さて進路はどうしようかと悩んでいたら、こんな考えに辿り着きました。「学校の先生になれば、また工業高校で楽しく過ごせ、その楽しさを後輩たちに伝えていけるのではないだろうか。」そう思ったことが教員になるきっかけでした。単純な考えかもしれないですが、物事って単純に考えた方が良いことも多いかもしれない、と今では考えています。そのようなきっかけのもと、私は教員免許を取得するべく大学に進学することとしました。

私の進学した日本工業大学出身の先生は群馬県にたくさんいます。太田工業の直接教わった先生もあり、私も迷わず日本工業大学に決めました。大学では情報工学を専攻し、教員を目指しながら専門の勉強や研究を行いました。研究では自動追従するシヨッピングカートの開発を行っている大学院まで続けました。

そして卒業後は渋川工業高校に五年間勤め、ついに母校太田工業高校

に帰ってきました。太田工業では担任としてクラスを三年間持ち上げ、この春卒業を迎えました。その時々と卒業生として、母校や地域、そして後輩達に貢献ができたのではないかと思います。



絆 展

笠原 久史 (1M)

事務局の糸井氏が会員への通知業務を進めるにあたり便宜的に命名した『絆展』の名称は適格な表現と暗黙の合意を得て正式会名となった。令和元年八月初旬、太田市の学習文化センターにてOB五名と恩師二名による絆展が華々しく開催されたのである。

私が太田工高の創立生徒として入学したのは昭和三十七年四月の五十六年前であった。

新設工高であるから全てが手探りのスタートであり、教職員は勿論、生徒も校風作りに奮闘の毎日であった。勿論、美術部も存在しておらず、

絵が好きだという仲間を誘い、設立を試みた。しかし、創部条件の十五名以上の仲間が揃わず、今だから言えるが、五・六名程の幽霊部員を加え無事創部条件の一つをクリアした。もう一つの条件は顧問がいることであつた。この時、耳よりの情報が飛び込んできた。機械科の中島勇作先生が県展に出品しているらしいとのこと。早速、顧問の就任をお願いしたところ、快諾頂き、ここが絆展へのスタートだったと言えるだろう。

以来、仲間も同様であろうが、勉強の合間や仕事の合間をぬって描き続けてきて現在にある。その後も美術を愛する仲間が連続してきいて現在も美術部活動を続けていると聞くと妙にうれしくなる。ただ、今は油彩画を描いている部員がいなくても聞いており、寂しさも同居している。

いずれにしろ、要請があれば何時でも後輩の指導に駆け付けたい心境である。油絵は難しいとの認識かもしれないが、修正が容易な油絵程優しい画材は無いと言いたい。では、絆展のメンバー五名を紹介したい。

一期の笠原、三期の広瀬論、四期の金子孝男、五期の馬込次雄、六期の糸井優である。

いずれも独自の画風を確立し、中央画壇で中核を担い活躍する者、コンクール展や地域美術展、個展などで活躍している者などの精鋭たちである。

絆 展

2019.08.06火～11日
太田市学習文化センター
展示ギャラリー

| | | |
|---|--|---|
|  <p>笠原 久史 Hisao Kasahara 1944年 群馬県太田市(旧)誕生 1971年 第一高等学校美術科卒業 1976年 前大島、92年 群馬県展、12年 文芸春秋、48年 1987年 ハーベスト・アップ展(文芸春秋) 2007年 前大島、11年 文芸春秋、15年 群馬県展 2006年 群馬県展(11年)群馬県展 2017年 文芸春秋、18年 群馬県展 職 位 第一高等学校美術科 日本美術家連盟会員</p> |  <p>金子 孝男 Takao Kaneho 1950年 群馬県中井町(旧)誕生(4期生) 1974年 第一高等学校美術科卒業 1974年 群馬県展、19年 文芸春秋、19年 1984年 群馬県展、19年 文芸春秋、19年 2007年 群馬県展(19年)群馬県展 2017年 群馬県展(19年)群馬県展 2018年 群馬県展(19年)群馬県展 職 位 第一高等学校美術科 文芸春秋、19年 群馬県展</p> |  <p>糸井 優 Masaru Itoi 1940年 太田市(旧)誕生(6期生) 1960年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 1971年 第一高等学校美術科卒業 2002年 群馬県展(10期生)群馬県展 2006年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2010年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2014年 群馬県展(15期生) 職 位 第一高等学校美術科 群馬県美術家連盟会員 伊勢崎美術協会 王立近代美術 伊勢崎市長</p> |
|  <p>広瀬 論 Satoshi Hirase 1960年 群馬県中井町(旧)誕生(4期生) 1974年 第一高等学校美術科卒業 1974年 群馬県展、19年 文芸春秋、19年 1984年 群馬県展、19年 文芸春秋、19年 2007年 群馬県展(19年)群馬県展 2017年 群馬県展(19年)群馬県展 2018年 群馬県展(19年)群馬県展 職 位 第一高等学校美術科 文芸春秋、19年 群馬県展</p> |  <p>馬込 文雄 Jyu Maikome 1940年 太田市(旧)誕生(6期生) 1960年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 1971年 第一高等学校美術科卒業 2002年 群馬県展(10期生)群馬県展 2006年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2010年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2014年 群馬県展(15期生) 職 位 第一高等学校美術科 群馬県美術家連盟会員 伊勢崎美術協会 王立近代美術 伊勢崎市長</p> |  <p>糸井 優 Masaru Itoi 1940年 太田市(旧)誕生(6期生) 1960年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 1971年 第一高等学校美術科卒業 2002年 群馬県展(10期生)群馬県展 2006年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2010年 太田市立工業高等学校(旧)卒業(10期生) 2014年 群馬県展(15期生) 職 位 第一高等学校美術科 群馬県美術家連盟会員 伊勢崎美術協会 王立近代美術 伊勢崎市長</p> |

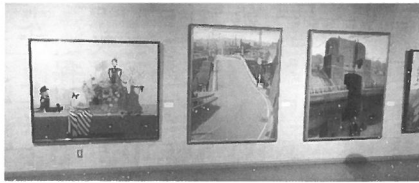
このメンバーに創立顧問の中島先生と社会科教師で顧問の竹澤征雄先生に賛助出品を頂いた。

絆展は一〇〇号クラスの大作を中心に三十八点が展観できる見ごたえのある美術展として好評のうちに無事終了した。

工業から美術へと異分野にチャレンジした成果は独特の個性に繋がりが魅力になっていく。そこに共感していただき、良い美術展だったとの評価であったと考える。

今後も三年毎のトリエンナーレなどの継続開催も視野に入れながら、各自の模索と研鑽は続けられるだろう。再開催は未知数だが、ご期待をいただければと思う。

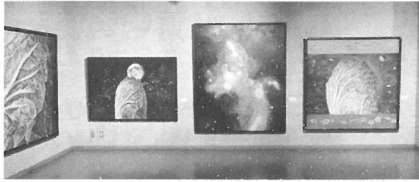
最後になりましたが、この美術展



中島先生コーナー



玄関前



笠原久央コーナー



竹澤先生コーナー

開催に当たり、何かとご支援・ご教示頂いた太田市文化協会連合会会長の戸塚氏、事務局の木村さんに敬意を表します。
また、展覧会の後援を頂いた太田市、太田市文化協会連合会、太田工業高校同窓会並びに参事会に御礼申し上げます。

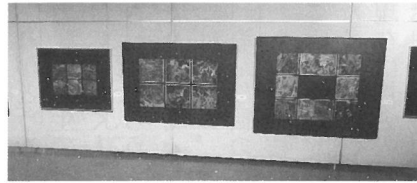
(絆展代表 笠原久史)



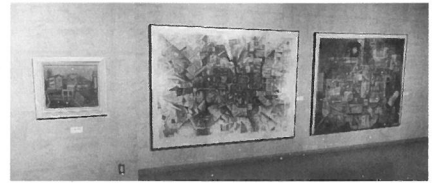
野球と私

篠木 貴裕 (45M)

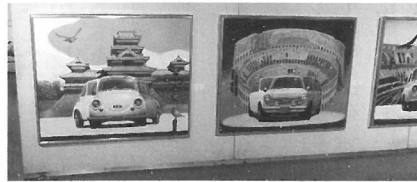
高校を卒業して約十一年、当時の自分にしてみれば今もまだ毎週のように



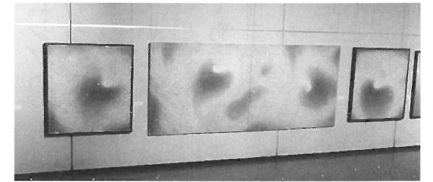
金子孝男コーナー



広瀬諭コーナー



糸井優コーナー



馬込次雄コーナー

うに野球をやっているなど思ってもいなかったと思います。

高校時代に卒業したら今のメンバーでチームを作って草野球をやるうと話していましたが、結局具体的に動くことなくチーム結成は無くなりました。その後、知り合いに誘われて地元の草野球チームに入る事になりました。入部当初は十、二十歳上の方々と一緒に野球をやるのは新鮮で、野球だけではなくいろいろな事を学ばせて頂きました。ただ、当時のチームは全体的に集まりも悪く、棄権や初戦敗退が続く、現役を引退したばかりの私には物足りなく、特に目標のないまま参加しているだけでした。そこで人数もギリギリだったので高校時代のチームメイトに声をかけチームに入ってもらいました。そこから中学時代の仲間や知り合いなども誘い人数を集めることに成功し、今では県大会に出場できるまでのチームにすることができました。

高校時代は決められたメニューをこなす毎日でしたが、今では週一、二回の練習や試合の中でどうやれば上手くなるか、どうすれば結果ができるかなど、限られた時間の中で考え、工夫して取り組むようになりました。チーム全体としても、ただ仲良くやるのではなく、お互いに意見を出し合いチームの為に各自意見ができる関係性がとてもいいと思っています。春に県大会に出場した際には準々決勝で二十代前半のチームと対戦し、試合をしてみても体力、スピードでは

若い子に勝てないと実感しました。

しかし、経験やチーム力では負けておらず、敗れはしたものの、延長まで互角に戦うことができました。この敗戦を経験し、まだまだやれると再認識し、さらに上を目指すモチベーションとなりました。

今後の目標として県大会優勝を目指してやっていきたいと思っています。さらに十年先、二十年先も今のメンバーで変わらせず、楽しく野球をやっていたらいいなと思います。

続・野球と私

工藤 孝俊 (14C)

高校を卒業して四十年余りが経ち、還暦を迎える歳となりました。考えるのは健康と年金の事ばかりの今日この頃です。

今の楽しみは息子の所属する草野球を応援する事です。学生時代の野球が楽しかったからこそ今も野球部の仲間を中心に野球を楽しんでいる姿を見ていても親として幸せです。

篠木君をキャプテンとして六人の元工業野球部員が中心となる久保田野球クラブは、太田市Bクラス上位のチームで毎回地区予選を勝ち抜き県大会に出場しているチームです。

私は篠木キャプテンの目標の中にある十年後、二十年後もこのメンバーで楽しく野球をしていきたいという言葉が印象的で高校時代の絆がい

つまでも続いて行くのだと感じました。

久保田野球クラブには皆さんの後輩又は先輩がいますので、是非応援に来てみて下さい。

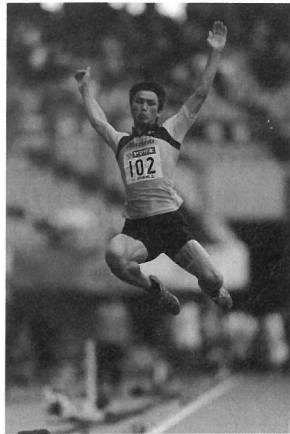
メンバー 四十五期卒業

篠木・工藤・神田・榊原・綿貫・宮本

選手生活を終えて



菅井 洋平 (40M)



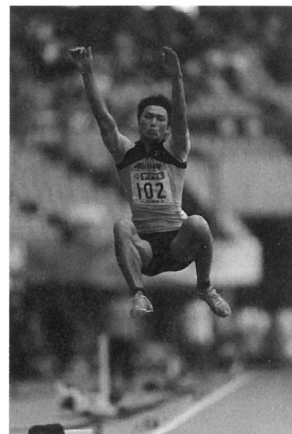
二〇〇三年卒業の菅井洋平と申します。陸上競技・走幅跳の選手でした。出身は隣の足利市なのですが当時、太田工業の陸上部顧問だった三芝功一先生(現、太田工業校長)との縁もあり太田工業へ進学をしました。太田工業三年時の国民体育大会では三芝先生指導の甲斐あって優勝することができ、太田工業卒業後は大学、

さらには社会人で十年間競技を続けまして二〇一七年に引退するまで約二十年の競技人生を送りました。競技者としての一番の目標であったオリンピック出場は叶わなかったのですが、それでも日本一に複数回なることができたこと、二〇一五年の世界陸上北京大会に日本代表として出場できたことは自身の競技人生の中で経験できた大きな財産です。世界陸上出場の際は母校太田工業の校舎に大きな横断幕を掲示していただきありがとうございました。約二十年の競技人生でしたが競技者としてだけではなく人間、大人として成長をさせてもらうことができたと思っています。いただいた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな私の人生を大きく変えてくれた陸上競技ですが、怪我が続いたことから満足なトレーニングができなくなり二〇一七年に現役を引退し、現在は社会人時代に所属していたスポーツメーカー「ミズノ株式会社」の社員として勤務をしています。主に陸上競技・ランニングのプロモーションを担当しているのですが、スポーツ選手の引退後のセカンドキャリアが問題になっているなか、長年やってきた陸上競技の現場で仕事できていることはとても幸運なことだと感じています。今までは逆の選手・チームをサポートする立場になり、まだまだ力不足を感じることは多々ありますが今まで培ってきた経験を活かしながら成長できるように

日々勉強させていたれています。

これまで何かの節目には必ず良い人との良い出会いがありました。これからの良い出会いに恵まれるよう日々過ごしていけたらと思っています。



光陰矢の如し

森戸 毅 (32M)



卒業してから十八年過ぎました。在学中は、あばれんぼう・不良生徒・ぬかにくぎ・勉強きらいと云われ級友、教職員の方には大変ご迷惑をおかけしました。成績は回れ右して一番を維持し、体育の三芝先生(現太田工業高校長)から毎日お叱りをうけました。

思い起こせば、これらはなつかしい思い出として脳裏に刻んであります。良妻にめぐまれ、こんな男でも

一家の主に成れました。

現在は、創業者から【有限会社北関東観光】をまかされ、貸切バス部門(三十六台保有) タクシー部門(三十六台保有)の陣頭指揮をとっています。

会社を伸ばすのは人以外にないと肝に銘じています。人生は生涯勉強です。自ら研鑽しないと新しい発想が生まれて来ません。

在学中に学んだことの一つに、人とは平等に親切に接すること、そして己は常に底辺に身を置き、決して横柄な態度をとらない、常に相手の立場に立つて物事を考えるという人間性があります。

この精神で、卒業生として誇りを胸に、お客様に愛される地域一番の会社を目指して参ります。公私ともに引き続きご指導ご鞭撻ご愛顧のほどよろしくお願い致します。

二つの後悔

大竹 八郎 (5MP)



同窓会報(三十六号)発行おめでとうございます。

今回の投稿で二回目になります。卒業して四十四年になります。ただ校舎が内ヶ島にある頃でした。判

子屋を経営していますが主にゴム印を製造しています。ゴム印の歴史とでもいいましようか、活字、写植機、現在はパソコンで製造しています。時代の流れと共に、さまざまな物が変わっていくなかで分岐点での決断力が弱くいつも迷ってしまいます。なぜあんな事してしまったのか又、ああしなかったのか後悔してしまいます。後悔のない人生を送ろうと思いつつ、この歳になってしまいました。何事か決断をしなければならぬ時に後悔しないようにしたいと思いますが、どちらも後悔があるならば行動をしての後悔を希望して、この先の人生を歩もうと思っております。ありがとうございます。

社会の中で、私が思うこと

入澤 駿 (50E)

同窓会誌の発行にお祝い申し上げます。また執筆依頼をいただき感謝いたします。懐かしい思い出がよみがえってきましたので、工業で学んだことを含めて書かせていただきます。

私は、二〇一四年に太田工業を卒業し、社会人として早、六年が経過としていきます。

実は、入社する前に希望していた職種は、スーツを着てPCの前で仕事をしていたイメージでした。そして、「そういった職場で戦ってほしい！」

という野心を抱いて、大きな会社に飛び込みました。しかし、現在私が行っている仕事は、PCでの仕事もありませんが、会議や検討に加えて現場へ出向き、現場の声を聞き、現場の声を形にする。そのためには汗と汚れと地道な作業を行うという、当初考えていたイメージとはかけ離れた仕事内容だったので。

そこで感じたことは、虚無感ではなく「まずはやってみよう！」そんな思いを抱いたことを覚えています。そう思えたのは、当時の校長先生であった中野勇治先生に教えていただいた「まかれた所で花を咲かせる」という言葉が私の中で大きかったと今も実感しています。そのおかげもあり、今では大きな仕事を任せてもらい、今まさにその仕事が無事に完遂しようとしています。結果、入社前に思い抱いていたフワツとした希望が、太陽のように形として光り輝く目標になりました。今後も目標に向かって自信を持って取り組んでいきます。そうした仕事の取り組みの中で感じていることは、大きな会社の中で、個人の力はあまりにも小さい、ということとです。会社や仕事は、私なしでも動いてしまうようにできています。しかし、そんな会社の中で生きていることに意義を見いだし、将来私たちに取って代わるロボットが台頭してくることも考えられるなかで私たちは、想定された仕事に対して完璧にこなすこと「技術力」、それに加え想定される以上の発見と

改善をやつてのけること「発想力」がより求められるでしょう。その技術力、発想力を醸成できる土台が太田工業にはあります。今後も卒業生一同でこれからの時代を切り開きましょう。

同窓会乾杯

二〇一七年二月十一日(土)
ホテルモンテローザ(太田)で実施
代表幹事 猪爪 雄二(A組)
恩師A組 竹澤 征雄(出席)
B組 田中 健司(欠席)
題名:S4506E65AB
(昭和四十五年三月卒業
電気科六十五歳 A組・B組)

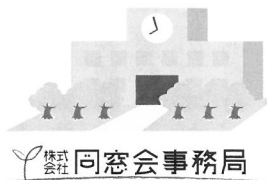


S4506E 太田工業高校同窓会 平成29年2月11日

一同期会・クラス会を開きませんか?

たのしい、うれしい、なつかしい思い出
あの人はお元気かしら.....

いつでもご相談ください



幹事様の面倒な準備作業
すべて代行いたします

TEL 0120-10-9870
FAX 0120-15-3460

同窓会 ホームページ

ホームページURL
<http://www.takou-ob.jp>
メールアドレス
m-charge@takou-ob.jp



進路指導部

1. 過去3年間の進路実績と今年度の希望状況 (10/31現在)

| 卒業年度 | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 今年度 | |
|------------------|-----|----------|------|-------|-----|-----|
| 進路先 人数 (人) | 進 学 | 大 学 | 26 | 20 | 25 | 22 |
| | | 短 大 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | | 専門・各種学校等 | 46 | 42 | 51 | 37 |
| | 就 職 | 就 職 | 114 | 123 | 115 | 124 |
| | | 公務員 | 2 | 1 | 2 | 4 |
| | | 自己就職等 | 5 | 1 | 2 | 4 |
| その他 | 1 | 2 | 2 | 0 | | |
| 合 計 | 195 | 190 | 197 | 193 | | |
| 進路の割合(%) | 進学率 | 37 | 33 | 39 | 32 | |
| | 就職率 | 62 | 66 | 60 | 68 | |
| | その他 | 1 | 1 | 1 | 0 | |
| 国・公立大学合格者数(人) | 1 | 1 | 0 | ----- | | |
| 求人総数の推移(人) | 905 | 1181 | 1396 | 1868 | | |

2. 過去3年間と今年度の求人状況 (10/31現在)

| | 求人企業数 | | | 求人数 |
|------|-------|------|------|-------|
| | 市内 | 県内 | 県外 | |
| 28年度 | 124社 | 180社 | 459社 | 905人 |
| 29年度 | 135社 | 196社 | 694社 | 1181人 |
| 30年度 | 165社 | 290社 | 721社 | 1396人 |
| 今年度 | 118社 | 198社 | 709社 | 1868人 |



平成30年度 第20回工業祭



編集後記

台風十五号による、千葉県内の大停電、十九号の大雨による洪水のニュースに心痛めています。電気科出身の私は、電気の重要性については誰よりも感じていたのに対応が後手にまわり残念です。

私自身、停電を経験したのは東日本大震災のときでした。それ以来八年間は電気のない生活は考えられませんでした。想定外の事件が多発する現代社会に不安を感じます。

平成から令和に変わり新たな気持ちでスタートしたのですが残念です。三十六号発行にあたり、初めて常任幹事(毎年各代表幹事)の五期・五十期の皆様に会報用原稿の作成をお願いしました。

今回は、多くの常任幹事の方に依頼しますので、同窓会の灯をともし続けていきます様、ご協力をお願いします。
(川島記)

